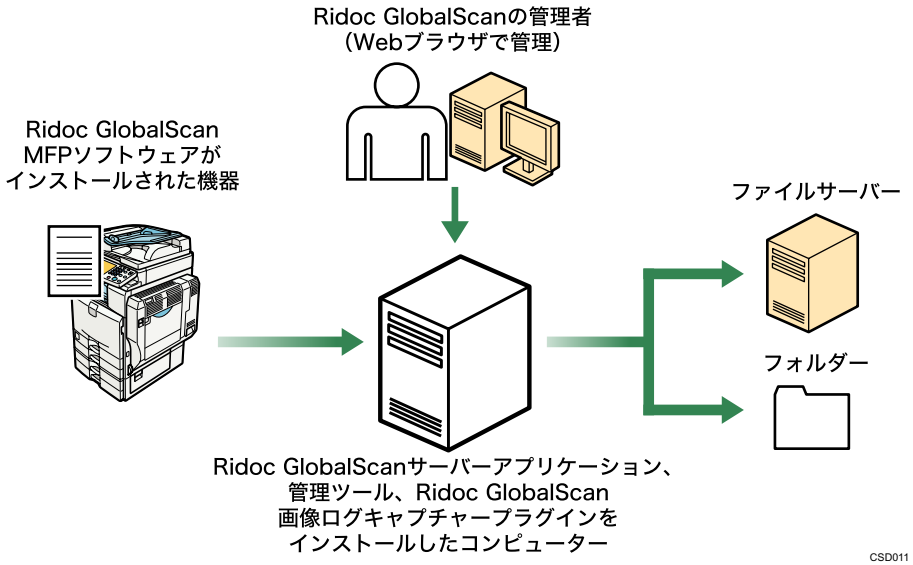
RICOH

Ridoc GlobalScan
画像ログキャプチャープラグイン
管理者ガイド

Ridoc GlobalScan 画像ログキャプチャープラグインは複合機（MFP）および Ridoc GlobalScan スキャナー機能の画像データを画像ログとして取得することができるプラグインサービスです。
画像ログは、MFP の操作種別ごとに取得が可能です。
また、画像ログに紐づいた文書情報（XML 情報）もあわせて取得が可能です。
取得した画像ログは、Ridoc GlobalScan の標準機能により、設定されたプロジェクトに従い様々な場所に配信が可能です。
画像ログキャプチャープラグインは、Ridoc GlobalScan スタンダードモードのみ対応です。（Ridoc GlobalScan ライトモードには対応していません）



図：画像ログキャプチャープラグインのワークフロー

補足

- この使用説明書は、画像ログキャプチャープラグインを使用するための設定手順について説明しています。管理者設定、サービス / フィルター設定などについての詳細は、『RGS 管理者ガイド』を参照してください。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったときに、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

おことわり

- 大切な文書やデータは、コピー（複製）をとってください。お客様が操作をミスした場合、あるいは本製品に異常が生じた場合、文書やデータが消失することがあります。また、コンピューターウイルス、ワーム、その他の有害なソフトウエア等に対する予防措置は、お客様の責任で講じてください。
- お客様が本製品を使用して作成した文書やデータを運用した結果について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- 本製品の故障による損害、文書やデータの消失による損害、その他本製品および使用説明書の使用により生じた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- 機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の一部、または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。
- 本製品および使用説明書を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 動作中に、ディスクの抜き差しをしないでください。

商標

Microsoft、Office、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

ご使用の前に

◆ 略称 / 呼称

本書では簡潔化のため以下の略称 / 呼称が使われています。

製品 / 名称	略称 / 呼称
Ridoc GlobalScan	RGS または rgs
Ridoc GlobalScan 画像ログキャプチャープラグイン	画像ログキャプチャープラグイン
複合機	MFP または機器

◆ 動作環境

＜対応バージョン＞
RGS スタンダードモード V2.1.1.0 以降

＜画像ログ取得に必要な環境＞

1. MFP 機能（コピー、スキャナー、プリンター、ファクス送信）の画像ログを取得する場合、以下が必要です。
   - キャプチャー対応 MFP
   - Imagio 拡張データ変換ボード
   - RGS サーバー
   - 画像ログキャプチャープラグイン
     MFP 機能の画像ログを取得する場合は、RGS MFP ソフトウェアおよび VM カードは不要です。
2. RGS スキャナー機能の画像ログを取得する場合、以下が必要です。
   - キャプチャー対応 MFP
   - Imagio 拡張データ変換ボード
   - Imagio VM カード
   - RGS MFP ソフトウェア
   - RGS サーバー
   - 画像ログキャプチャープラグイン
     RGS スキャナー機能の画像ログを取得する場合は、RGS MFP ソフトウェアが必要です。

補足

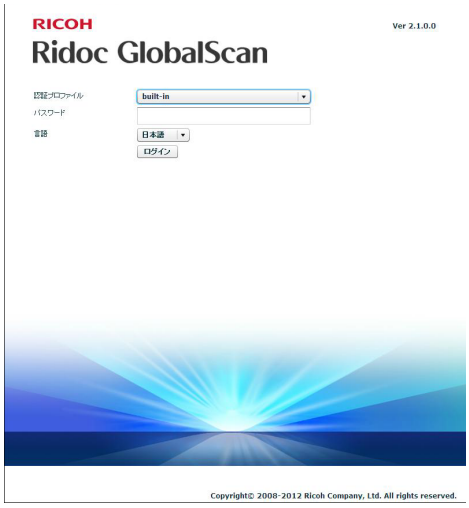
・MFP 機能のスキャンでは、MFP のスキャナー機能を使用してスキャンします。（RGS は使用しません。）
・RGS スキャナー機能のスキャンでは、RGS をインストールして RGS を使ってスキャンします。

画像ログキャプチャープラグインをインストールする

手順 1：インストールの前に

ビルトイン管理者アカウント、または管理者権限で作成されたアカウントで管理ツールにログインしてください。

1. Web ブラウザを起動します。
2. 以下の URL を入力し、管理ツールにアクセスします。
   http://IP アドレス : ポート番号 / 仮想ディレクトリー名 /
   （デフォルト：**http://IP アドレス :8080/gsnx/**）
3. [Enter] キーを押すか、[移動] をクリックします。
   管理ツールログインページが表示されます。



図：管理ツールログインページ
画面イメージは Ver.2.1.0.0 の例です。

4. パスワードを入力します。
5. 必要に応じて言語を選択します。
6. [ログイン] をクリックします。
   管理ツールホーム画面が表示されます。
7. [メンテナンス設定] をクリックします。



図：管理ツールホーム画面
画面イメージは Ver.1.2.0.0 の例です。

8. [システム制御] をクリックします。
9. [配信サービスの状態を切り替える] をクリックし、「現在の配信サービス状態」を「配信停止中」に切り替えます。

   補足
   - 「現在の配信サービス状態」にある [更新] をクリックすると、最新の配信サービス状態に更新されます。

10. [はい] をクリックします。
11. [ログアウト] をクリックし、管理ツールからログアウトします。

手順 2：インストール手順

1. コンピューターで動作中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. GSLaunch.exe をダブルクリックします。
   セキュリティの警告ダイアログが表示された場合、[実行 (R)] をクリックします。
3. [画像ログキャプチャープラグイン] をクリックして、インストーラを起動させます。
   セットアップ準備画面が表示されます。
4. [次へ (N)] をクリックして、使用許諾画面へ進みます。
   使用許諾契約画面が表示されます。
5. 「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、[次へ (N)] をクリックします。
6. シリアル番号を入力します。
7. [次へ (N)] をクリックして、インストール中画面へ進みます。

   補足
   - インストール先は RGS がインストールされているフォルダーが指定されます。
   - Ridoc GlobalScan の「現在の配信サービス状態」が「配信実行中」である場合、「配信停止中」に設定してください。

8. [はい (Y)] をクリックします。
9. [完了] ボタンをクリックします。
   インストールが完了します。

アンインストールするとき

画像ログキャプチャープラグインをアンインストールするときは、Windows メニューの [プログラムの追加と削除] からアンインストールを実行してください。

キャプチャー設定ツールの設定手順

手順 1：キャプチャー設定ツールへのログイン

1. 管理者権限を持ったユーザーでログインします。
   ログインに成功すると、I/O 機器一覧画面が表示されます。



ログインできない場合

エラーメッセージ	原因／対応方法
「認証に失敗しました。」	認証プロファイル、ログインユーザーを確認してください。
「ログインユーザーに管理者権限がありません。」	ログインユーザーが管理者権限を持っているかを確認してください。
「すでに他のユーザーが管理者権限で接続しているため、サーバーにアクセスできません。」	RGS の管理ツールにログインしている場合は、ログアウトしてください。 または、RGS サービスを再起動してください。
「サーバーに接続できませんでした。」	RGS サーバーが停止しています。サーバーを起動してください。

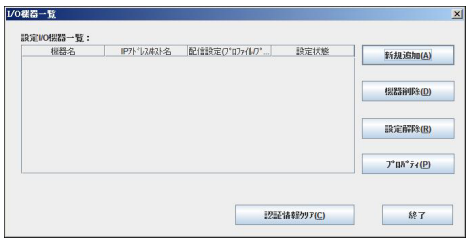
補足

- 本ツールへログイン中は、RGS 管理ツールにログインできません。
- 「認証プロファイル :」の選択項目は、下記の認証方式に対し、RGS 管理ツールにおいて利用可能に設定されている方式が選択できます。
  - built-in
  - Active Directory 認証方式
  - LDAP 認証方式

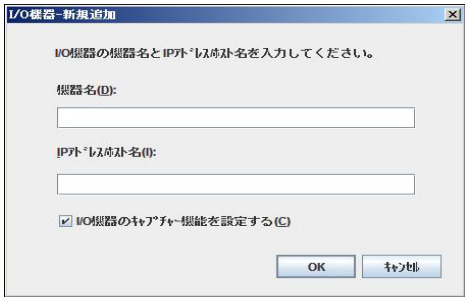
  また、下記の認証方式は選択できません
  - Active Directory ユーザー確認方式
  - LDAP ユーザー確認方式
- 「ユーザー名 (U):」「ドメイン名 :」は、その項目が必要である認証方式を選択した場合のみ表示されます。

手順 2：I/O 機器の新規追加

1. I/O 機器一覧画面で [新規追加 (A)] をクリックします。



2. I/O 機器 - 新規追加画面でキャプチャー対象とする MFP の「機器名 (D):」（任意）、「IP アドレス／ホスト名 (I):」（必須）を入力します。
   キャプチャー設定を行うため、「I/O 機器のキャプチャー機能を設定する (C)」のチェックがついていることを確認してください。
   項目を入力後、[OK] をクリックしてください。



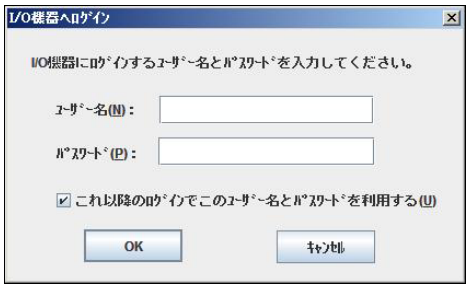
補足

- 機器登録のみを行いキャプチャー機能の設定をしない場合は、「I/O 機器のキャプチャー機能を設定する (C)」のチェックを外し [OK] をクリックすると、I/O 機器一覧画面に戻ります。

I/O 機器の新規追加ができない場合

エラーメッセージ	原因／対応方法
「指定された機器はすでに登録されています。」	指定された機器が既に登録されています。変更するためには、既存の設定を変更するか、削除して新規登録を行ってください。
「該当 I/O 機器はサポートされません。」	本キャプチャー機能の対象機器ではありません。

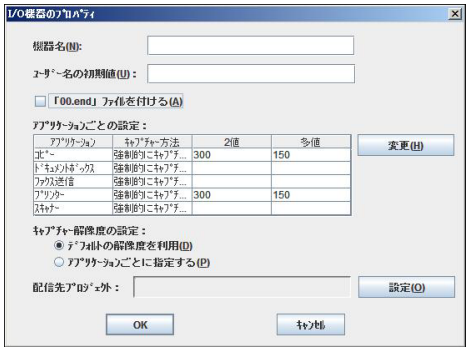
3. I/O 機器へログイン画面が表示されるので、キャプチャー対象とする MFP にログインするユーザー名とパスワードを入力します。
   以降、このユーザーでキャプチャー設定を行う場合は、「これ以降のログインでこのユーザー名とパスワードを利用する (U)」のチェックを付けます。
   設定後、[OK] をクリックします。



補足

- ユーザー名とパスワードはキャプチャー設定ツールで 1 つのみ保持されます。
- キャプチャー設定ツールを閉じると、ユーザー名とパスワードは破棄されます。
- ユーザー名とパスワードをクリアしたい場合は、I/O 機器一覧画面で [認証情報クリア (C)] をクリックしてください。

4. I/O 機器のプロパティ画面が表示されるので、「機器名 (N):」、およびキャプチャーを行う機器に設定するユーザー名の初期値を設定する「ユーザー名の初期値 (U):」を任意で入力します。



補足

- 「「00.end」ファイルを付ける (A)」を選択したキャプチャー配信で、配信フローに PDF 変換フィルターを配置する場合は、PDF 変換フィルターの設定で「パスワードを付与する」機能を利用すると配信時にエラーとなります。
  この場合は、「パスワードを付与する」設定を「いいえ」にして利用してください。
- 「「00.end」ファイルを付ける (A)」を選択したキャプチャー配信で、配信フローに画像補正フィルタープラグインを配置すると、配信時にエラーとなります。
- 手順 2 で「機器名 (D):」を設定した場合は、入力した値が「機器名 (N):」引き継がれます。
- 「ユーザー名の初期値 (U):」の初期値は以下の通りになります。
  - 該当 I/O 機器にユーザー名の初期値が設定されない場合は空白となる
  - 1 台の機器のみを設定する場合、該当機器に設定した最初に検知されるアプリ（コピー、プリンターなど）のユーザー名の初期値
  - 複数台の機器を設定する場合、最初に検知される機器のユーザー名の初期値

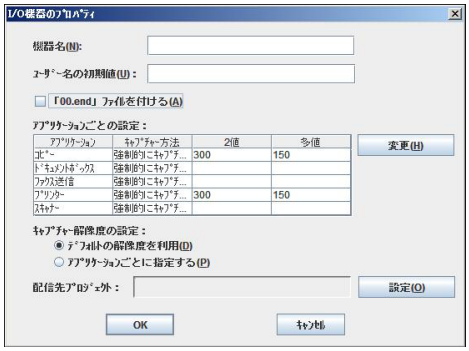
5. I/O 機器のプロパティ画面で「キャプチャー解像度の設定 :」を選択します。
   「デフォルトの解像度を利用 (D)」を選択すると、全てのアプリケーションは該当機器のデフォルト解像度を利用します。



補足

- 「デフォルトの解像度を利用 (D)」を選択しても、「アプリケーションごとに指定する (P)」で設定した解像度の値の表示は変わりません。
- RGS アプリケーションを使用したスキャナーのキャプチャーは、スキャナーアプリケーションのキャプチャーの設定に従います。
- 機器本体のスキャナーと RGS のスキャナーを異なる設定にすることはできません。

6. アプリケーションごとの設定を行います。
   設定を行うアプリケーションの行を選択し [変更 (H)] をクリックしてください。
   または、行をダブルクリックしてください。



補足

- 機種によっては解像度を変更できない場合があります。その場合、お使いの機種で設定された解像度がキャプチャー解像度の値となります。お使いの機種の解像度については、該当機種のマニュアルで確認してください。
- キャプチャー解像度の設定をサポートする機器は、該当機器のアプリケーションごとの解像度を表示します。
- 「キャプチャー解像度の設定 :」で「デフォルトの解像度を利用 (D)」を選択した場合、キャプチャーをするかどうかの選択のみで、解像度の指定は必要ありません。
- 「デフォルトの解像度を利用 (D)」を選択した場合、指定した MFP の解像度を利用します。指定した MFP の解像度設定については、該当機器のマニュアルを参照してください。

- 「キャプチャー解像度の設定 :」で「アプリケーションごとに指定する (P)」を選択すると、設定した解像度が利用されます。

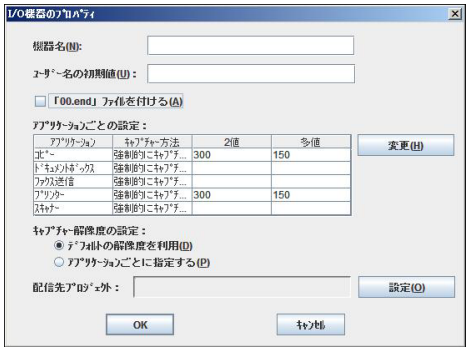
7. キャプチャー設定画面が表示されるので、「キャプチャー方法 :」「キャプチャー解像度」を選択します。
   選択後、[OK] をクリックし、I/O 機器のプロパティ画面に戻ります。



補足

- キャプチャーを行う場合のキャプチャー方法は、「強制的にキャプチャーする（ユーザー選択なし）」のみです。
  この時、該当アプリケーションの全ての文書がキャプチャーされます。また、オペレーションパネル上でユーザーの選択はできず、デフォルトユーザー、または認証ユーザーが使用されます。ただし、PC ー FAX 送信、プリンターでは、ドライバーに設定されたユーザー名が使用されます。
- キャプチャー解像度の設定をサポートしない機器では、解像度は空欄になります。
- キャプチャー解像度の設定は、手順 6 において「キャプチャー解像度の設定 :」を「アプリケーションごとに指定する (P)」にした場合のみ反映されます。
- キャプチャー解像度の設定をサポートする機器は、該当機器のアプリケーションごとの解像度を表示します。
- ドキュメントボックスのキャプチャー解像度は、コピーのキャプチャー解像度に従います。

8. I/O 機器のプロパティ画面で「配信先プロジェクト :」の [設定 (O)] をクリックします。



9. 配信先プロジェクトの設定画面でキャプチャーデータを配信するプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。



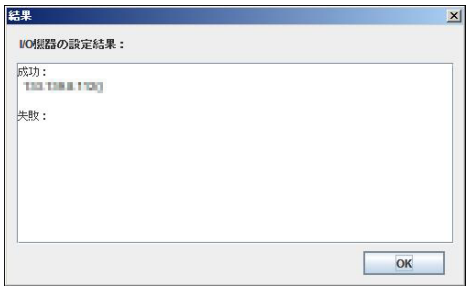
配信先プロジェクトの設定ができない場合

エラーメッセージ	原因／対応方法
「サーバーに接続できませんでした。」	RGS サービスが開始しているか確認してください。
「プロファイルが見つかりません。」	ワンタッチスキャンが設定されているプロジェクトがあることを確認してください。

10. I/O 機器のプロパティ画面で [OK] をクリックします。

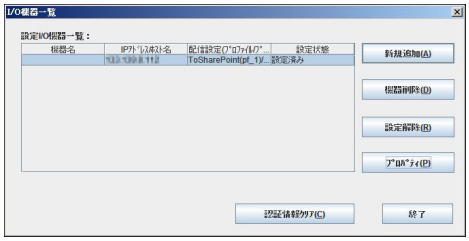


11. 結果画面が開き、設定した I/O 機器の IP と機器名が「成功」項目に表示されるので、確認し、[OK] をクリックします。



設定した値で機器のプロパティが設定され、I/O 機器一覧画面に戻ります。

12. 登録した機器情報が「設定 I/O 機器一覧 :」に表示されるので、「設定状態」が「設定済み」になっていることを確認します。

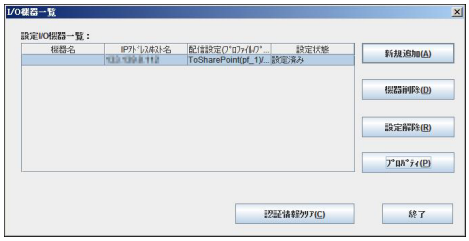


補足

- 複数の FAX 送信先、スキャナーの送信先情報を取得するためには以下の条件が必要です。
- 2008 年秋モデル以降の機種を利用している
- 機器の「ログ／ジョブログ収集」を「有効」、及び該当アプリケーションについて「収集する」に設定している。
  ジョブログ収集の設定手順は以下の通りです：
  1. ブラウザで http://MFP の IP アドレス を入力して、WebImageMonitor を開く
  2. [ログイン] をクリックして、「ログインユーザー名」と「ログインパスワード」を入力して、[ログイン] をクリック
  3. [設定] → [ログ] をクリックして、「ジョブログ収集」で「有効」を選択して、[OK] をクリック

手順 3：I/O 機器 設定内容変更

登録したキャプチャー対応機器の設定内容の変更は、I/O 機器一覧画面で行います。



設定 I/O 機器一覧

登録した機器の一覧が表示されます。
機器をダブルクリックすると、その機器の設定のプロパティが表示されます。

設定状態について

- 設定が完了し、キャプチャー可能である場合、「設定済み」と表示されます。
- 設定がされていないか、キャプチャーをしない場合、「未設定」と表示されます。

新規作成

キャプチャー対象の機器を一覧に追加します。
P.5「手順 2：I/O 機器の新規追加」を参照してください。

新規追加できない場合

エラーメッセージ	原因／対応方法
「管理できる I/O 機器は 100 台です。これ以上 I/O 機器登録はできません。」	100 台を越えて機器を登録することはできません。

機器削除

登録したキャプチャー対象の機器を一覧から削除します。

1. 設定 I/O 機器一覧から該当する機器を選択し、[機器削除 (D)] をクリックします。
   Ctrl キーを押しながら選択することで、複数機器の選択も可能です。
2. I/O 機器削除の確認画面が表示されるので、[OK] をクリックします。



I/O 機器へのログインに成功すると、蓄積文書の削除の確認画面が表示されます。

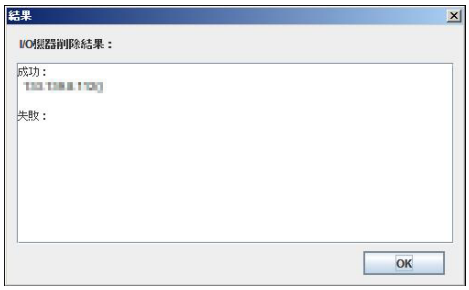


3. I/O 機器本体に蓄積されている未配信のキャプチャー文書を削除する場合は [OK] をクリックします。削除しない場合は、I/O 機器の再設定を行うことで、蓄積文書の転送が再開されます。

補足

- 一部機種は、蓄積文書の削除機能に対応していません。未対応機種を選択している場合はこの画面はスキップされ、未配信のキャプチャー文書は MFP の HDD に蓄積されます。この場合、I/O 機器の再設定を行うことで、蓄積文書の転送が再開されます。

確認画面で選択後、「I/O 機器削除結果 :」が表示されます。

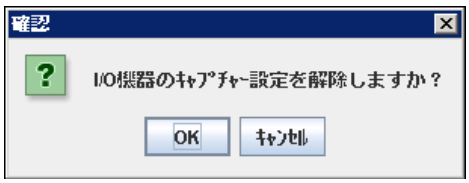


4. 結果を確認し、[OK] をクリックします。
   設定 I/O 機器一覧から選択した機器が削除されます。

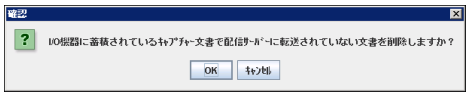
設定解除

登録したキャプチャー対象機器の設定を解除します。

1. 設定 I/O 機器一覧から該当する機器を選択し、「設定済み」の機器を一覧から選択し [設定解除 (R)] をクリックします。
   Ctrl キーを押しながら選択することで、複数機器の選択も可能です。
2. 設定解除の確認画面が表示されるので、[OK] をクリックします。



I/O 機器へのログインに成功すると、蓄積文書の削除の確認画面が表示されます。

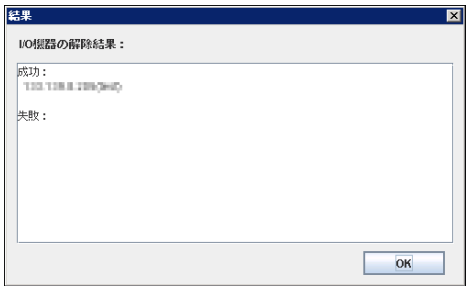


3. I/O 機器本体に蓄積されている未配信のキャプチャー文書を削除する場合は [OK] をクリックします。削除しない場合は、I/O 機器の再設定を行うことで、蓄積文書の転送が再開されます。

補足

- 一部機種は、蓄積文書の削除機能に対応していません。未対応機種を選択している場合はこの画面はスキップされ、未配信のキャプチャー文書は MFP の HDD に蓄積されます。この場合、I/O 機器の再設定を行うことで、蓄積文書の転送が再開されます。

確認画面で選択後、「I/O 機器の解除結果 :」が表示されます。



4. 結果を確認し、[OK] をクリックします。
   設定 I/O 機器一覧において選択した機器の設定状態が「未設定」に変更されます。

補足

- 「設定解除」とは、キャプチャーをしている機器のキャプチャー動作を停止することです。
  プロパティに設定した各項目は削除されません。再度キャプチャーを開始する場合は、プロパティから再度内容を確認し、[OK] をクリックしてください。

プロパティ

登録した機器のキャプチャー設定を行います。

設定 I/O 機器一覧から該当する機器を選択し、[プロパティ (P)] をクリックしてください。

Ctrl キーを押しながら選択することで、複数機器の選択も可能です。

I/O 機器へのログインに成功すると、I/O 機器のプロパティ画面が表示されます。変更／設定箇所を入力し、[OK] をクリックしてください。

各項目の内容については、P.5「手順 2：I/O 機器の新規追加」の手順 4 以降を参照してください。



補足

- 異なる機種に対し複数機器を選択しプロパティの設定をする場合、各機種の解像度変換の対応が異なるために、同じ設定内容にならないことがあります。複数設定は、同じ機種の機器に対し行うようにしてください。

動作確認

1. キャプチャー対象のアプリケーションを動作させます。
2. 配信先に画像が配信されていることを確認します。

詳細仕様

追加される機能

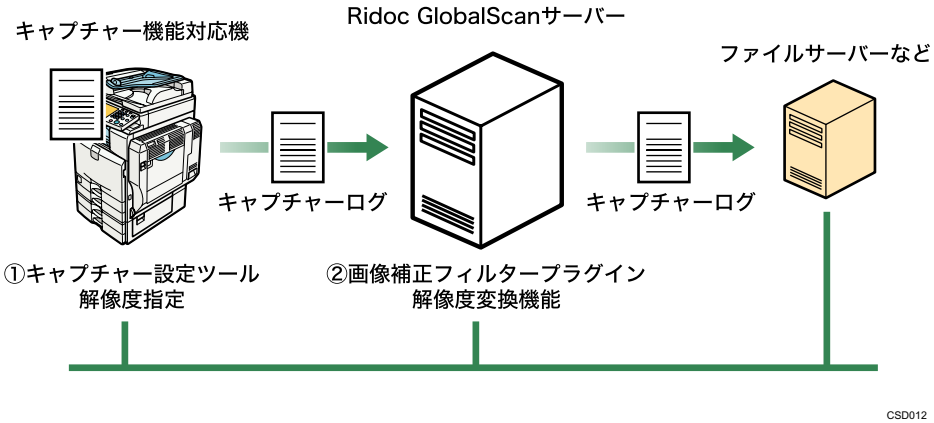
画像ログキャプチャープラグインを導入すると以下の機能が追加されます。
- キャプチャー設定ツール
- キャプチャージョブログ画面（RGS 管理ツール）

キャプチャー対象

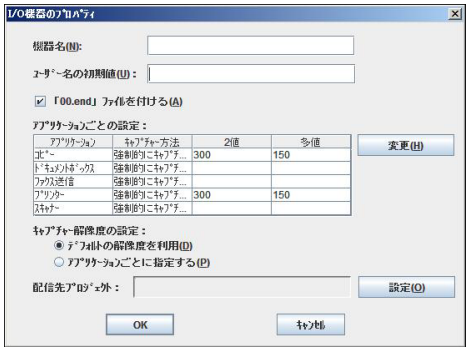
アプリケーション（機能）	キャプチャー可否	備　考
コピー	可	
ドキュメントボックスへの蓄積	可	
スキャナー	可	• I/O 機器登録を行った時点で、ファイル形式 / クリアライト PDF はボタンがグレーダウンし使用不可となります。 • Twain によるスキャンはキャプチャーの対象となりません。 • スキャン To メディアはキャプチャーの対象となります。
プリンター	可	• メディアプリントはキャプチャーの対象となります。 • PDF ダイレクト印刷は、キャプチャーの対象となりません。
FAX 送信	可	• I/O 機器登録を行った時点で、直接送信はグレーダウンし使用不可となります。 • 受信 FAX と FAX 転送には対応していません。
RGS を利用したスキャナー	可	• 受信 FAX は、画像ログキャプチャープラグインがなくてもキャプチャーできます。 • ファイル自動入力プラグインには対応していません。

キャプチャー解像度の設定

キャプチャー解像度は、以下の 2 種類の機能により設定を行うことができます。



1. キャプチャー設定ツールによる解像度指定
   キャプチャー設定ツールで指定した解像度の画像が RGS サーバーへ転送されます。



   キャプチャー設定ツールにより、I/O 機器から転送される画像の解像度を指定することができます。
   RGS サーバーへの転送以前に変換されるため、ネットワークや RGS サーバーへの負荷を軽減することができます。
   ここでの解像度変換は、以下の 2 種類の設定が可能です。

   - デフォルトの解像度を利用
     プリンター、スキャナー、FAX のキャプチャー時には、ユーザーが本体で設定した解像度でキャプチャーを行います。コピーは機器の初期値に従った解像度でキャプチャーを行います。
   - アプリケーションごとに指定する
     キャプチャー設定ツールにおいて選択した解像度でキャプチャーを行います。
     ただし、機器の発売時期により、各アプリケーションで解像度変換可能な機器が制限されます。

2. RGS 管理ツールによる画像補正フィルタープラグインの解像度変換機能

RGS サーバーにおいて解像度を変換し、配信先へ配信を行います。



RGS 管理ツールの設定により、RGS サーバーにおいて解像度変換を行うことができます。この変換により、配信先へのネットワークの負荷や容量の負荷を軽減することができます。

この変換を行う場合は、キャプチャー機能で使用する配信フローに画像補正フィルタープラグインを入れてください。

画像ログキャプチャープラグインを導入することにより、画像補正フィルタープラグインに「解像度を変更する」の項目が追加され、キャプチャーされた画像を低解像度へ変換することが可能です。

設定できる解像度は 100dpi, 200dpi, 300dpi, 400dpi, 600dpi です。ただし、低解像度の画像を高解像度へ変換することはできません。

キャプチャーログの見方

RGS 管理ツールのジョブ管理ビューに capture タブが追加され、キャプチャーログが表示されます。
ジョブログビューは、アプリケーション種別に関係なくスキャンログや FAX ログと同じ 1 つのビューに表示されます。



ジョブログビュー、ジョブ管理ビューの各項目名に変化はありません。
ただし、下記の内容が各項目に出力されます。

項目名	MFP 機能をキャプチャーした場合	RGS スキャナー機能を キャプチャーした場合
生成日時	-	-
最終更新日時	-	-
ジョブ ID	-	-
状態	-	-
リトライ回数	-	-
プロジェクト名	-	-
ユーザー名	取得できません。*1	取得できません。*1
文書名	「生成元ジョブ ID」と同様の値が出力されます。	「生成元ジョブ ID」と同様の値が出力されます。
ページ数	-	-
サイズ	-	-
タイプ	「capture」が固定で出力されます。	「capture」が固定で出力されます。
先頭ページ用紙サイズ	取得できません。	-
先頭ページ解像度	-	-
機器名	キャプチャー設定ツールで指定した機器名＋[機器シリアル番号] が出力されます。 例） 本社 3 階 [3A80-071033]	-
登録日時	-	-
生成元ジョブ ID	「S:」＋「機器シリアル番号」＋「:」＋「機器 JobLogID」が出力されます。 例） S:3A80-071033:0000000000026d9f	GUID が出力されます。 キャプチャー対象の RGS ログの生成元ジョブ ID にも同じ値が出力されます。 例） ab767f37-da72-11de-8b67-bba9dlfa4fe5
読み取りページ数	取得できません。	-
MAC アドレス	-	-
IP アドレス	-	-
機器登録名	キャプチャー設定ツールで指定した機器名が出力されます。	-

*1 「ユーザー名」は管理ツール上のキャプチャーログの画面では確認することはできません。
ただし、ユーザー情報は文書情報「captureOperator」「captureOwner」から取得可能です。P.16「文書情報」を参照してください。

補足

- 「-」は、通常の RGS のログと同様の値が出力されることを意味します。

エラー処理

MFP から RGS サーバーへのデータ転送時のエラー処理

MFP から画像ログを転送する際、以下の場合は MFP が転送のリトライ処理を行います。

- 転送先の RGS サーバーに接続できない
- 転送先の RGS サーバーがディスクフルのため処理を継続できない

MFP からのリトライ処理の間隔は 5 分でリトライ回数は無制限です。
転送ができない状況が続くと MFP 側の HDD がフルになってしまうため、迅速に復旧作業を行なう必要があります。

MFP から転送後のエラー処理

MFP から RGS サーバーに転送された直後に予期せぬエラーが発生し、RGS サーバーのエラー処理 (エラージョブとして投入あるいは退避フォルダーへ移動) も実行されなかった場合、システムログにエラー内容を記述し、画像ファイルを以下の退避フォルダーに移動します。

%data_path%\CaptureInput\reject
システムログの備考欄には退避先フォルダーのパスが記載されます。

退避フォルダーに移動となったジョブは、以下の手順でジョブを再処理することが可能です。

1. Windows のスタートメニューから管理ツール／サービスを開き、「GlobalScan Service」を停止する。
2. %data_path%\CaptureInput\reject フォルダー直下のフォルダーを %data_path%\CaptureInput\save フォルダー直下へ移動する。
3. 「GlobalScan Service」を開始する。

補足

- reject フォルダーおよび save フォルダー以下のフォルダー構造は同様です。
- reject/save フォルダー直下には 1 つのジョブにつき、1 つのフォルダーが作成されます。
  フォルダー名は
  [年月日時分秒ミリ秒]_[投入機器の MAC Address]
  Ex.) 20091210184819587_001122334455
  となります。

文書情報

画像ログキャプチャープラグインで取り込まれ配信されるファイルには文書情報が設定されます。ここでは画像ログキャプチャープラグイン独自の文書情報について説明します。その他の文書情報については、『RGS 管理者ガイド』を参照してください。

項目名	MFP 機能をキャプチャーした場合	RGS スキャナー機能をキャプチャーした場合
captureCreationDate	**操作日時** GMT + タイムゾーンで表現されます YYYY-MM-DDThh:mm:ss ±タイムゾーン 例） 日本時刻 2009 年 11 月 16 日 16 時 1 分 10 秒の場合 2009-11-16T05:01:10+09:00	
captureFunction	**操作種別** キャプチャーする対象アプリケーションの名称が以下の値で出力されます。ただし、ドキュメントボックスのキャプチャー時は「copy」が出力されます。 • copy • print • scan • fax	「scan」が固定で出力されます。
captureApplication	**入力システム** 「gsnx」が固定で出力されます。	
captureJobLogId	**ジョブログ ID** 「S:」＋「機器シリアル番号」＋「:」＋「機器 JobLogID」が出力されます。 例） S:3A80-071033:0000000000026d9f *1	GUID が出力されます。
capturePageCount	**キャプチャーしたページ数**	
contentSize	**MFP から RGS サーバーに転送された時点の文書の総サイズ (単位：バイト)** フィルター処理などによる画像変換でサイズ変更を行っても本値には反映されません。	
name	**文書名** captureJobLogId と同じ値が出力されます。 プリンターのキャプチャーでは一部動作が異なります。 • 印刷方法が「ドキュメントボックスに蓄積する」の場合：ファイル名 • 印刷方法が「ドキュメントボックスに蓄積する」以外の場合：ジョブログ ID	RGS スキャナーの文書名と同じ値が出力されます。
captureJobId	**キャプチャージョブ ID** プリンターのキャプチャー時のみ出力されます。 例） AUp1oAAATbEvxDw このような値のため、通常は利用しません。	出力されません。 RGS アプリケーションのジョブ ID とは異なります。
captureOperator	出力されません。	機器にログインしているログインユーザーの「ログインユーザー名」 機器にログインしていない場合は空になります。
captureSenderUserName	機器にログインしているログインユーザーの「キー表示名」	出力されません。
hostName	キャプチャー設定ツールで指定した機器名 + シリアル番号	機器のホスト名

項目名	MFP 機能をキャプチャーした場合	RGS スキャナー機能を キャプチャーした場合
captureOwner	**文書の所有者** 機器にログインしている場合はログインユーザーの「キー表示名」となります。 機器にログインしていない場合は、キャプチャー設定ツールで入力した「ユーザー名の初期値」の値となります。	出力されません。
captureCopyVolume	**部数** コピー、プリンターのキャプチャー時のみ出力されます。	出力されません。
captureNumber UpPageOrder	**集約** コピーのキャプチャー時のみ出力されます。 1：集約なし 2：2 ページを 1 ページ 4 ページを 1 ページ (両面) ミニ本、週刊誌 4：4 ページを 1 ページ 8 ページを 1 ページ (両面) 8：8 ページを 1 ページ 16 ページを 1 ページ (両面)	出力されません。
outMode	**両面 / 片面** コピーのキャプチャー時のみ出力されます。 single：片面 duplex：両面、ミニ本、週刊誌	single：片面 duplex：両面
captureFaxReceiver Count	**FAX 送信宛先数** FAX 送信のキャプチャー時のみ出力されます。*2	出力されません。
captureReceiver	**FAX 送信情報 (receiverPortId)** FAX 送信のキャプチャー時のみ出力されます。 同報送信時は複数の値を出力し、以下に示す値を取ります。*2 G3-1：G3-1 G3-2：G3-2 G3-3：G3-3 G4-1：G4-1 G4-2：G4-2 ipfax：IPFax i-fax：InternetFax	出力されません。
	FAX 送信宛先番号 (faxNumber) FAX 送信のキャプチャー時のみ出力されます。 同報送信時は複数の値を出力します。*2	出力されません。
captureScanReceiver Count	**スキャン送信宛先数** スキャナーのキャプチャー時のみ出力されます。	出力されません。

項目名	MFP 機能をキャプチャーした場合	RGS スキャナー機能を キャプチャーした場合
captureReceiverInfo	**スキャン送信情報 (receiverPortId)** スキャナーのキャプチャー時のみ出力されます。 複数宛先時は複数の値を出力し、以下に示す値を取ります。*2 ftp：FTP（フォルダー転送） smb：SMB（フォルダー転送） mail：MAIL http：HTTP による送信	出力されません。
	スキャン送信宛先 (receiverDestination) スキャナーのキャプチャー時のみ出力されます。 スキャン宛先の E-mail アドレスやフォルダーパスが出力されます。複数宛先時は複数の値を出力します。*2	出力されません。
	スキャン宛先名称 (receiverName) スキャナーのキャプチャー時のみ出力されます。 スキャン宛先名が出力されます（宛先選択時は MFP アドレス帳の「名前」、直接選択時は空）。複数宛先時は複数の値を出力します。*2	出力されません。
transferKind	**転送種別（目的）** キャプチャーの時は「capture」が固定で出力されます。	「capture」が固定で出力されます。
application	**ジョブ種別** 「capture」が固定で出力されます。	出力されません。

*1 FAX 送信キャプチャー時は、P.18「ジョブログ収集設定」を行ってください。
設定しない場合、JobLogID が「0000000000000000」となり、取得できません。

*2 取得する場合は P.18「ジョブログ収集設定」を行ってください。
複数宛先をサポートしている機種は、2008 年秋モデル以降となります。
また、ファイル名への付与は制限があるため、P.21「注意制限事項」を参照してください。

ジョブログ収集設定

1. ブラウザで http://MFP の IP アドレス を入力して、Web Image Monitor を開く。
2. 管理者権限でログイン後
   設定 > 機器 > ログ

「ジョブログ収集」を「有効」にします。

- スキャナーキャプチャー時
  「スキャナー：送信」を「収集する」にします。
- FAX 送信キャプチャー時
  「ファクス：送信」を「収集する」にします。
  「ファクス：PC ファクス送信」を「収集する」にします。

認証連携

個人認証システム AE との連携

個人認証システム AE でログインした ID の情報を取得することができます。
その場合の文書情報は以下のようにセットされます。

タグ名	MFP 機能のキャプチャー	RGS スキャナーのキャプチャー
CaptureOwner	名前 *1	出力されません
CaptureOperator	出力されません	ログインユーザー名 *1
captureSenderUserName	キー表示名 *1	出力されません

*1 個人認証システム AE/AE2 認証管理ツールで「名前」または「キー表示名」がブランクだったときは、機器にログインしているログインユーザー名が機器アドレス帳の各項目に登録されます。

操作を行なったユーザー情報でフォルダー名やファイル名を付与する場合には、CaptureOperator を利用してください。
ただし、表示名とユーザー ID が異なる場合には、同じユーザーであっても異なるフォルダー名、ファイル名が付与されます。

個人認証システム AE2 との連携

個人認証システム AE2 でログインした ID の情報を取得することができます。
その場合の文書情報は以下のようにセットされます

タグ名	MFP 機能のキャプチャー	RGS スキャナーのキャプチャー
CaptureOwner	名前 *2	出力されません
CaptureOperator	出力されません	ログインユーザー名 *2
captureSenderUserName	キー表示名 *2	出力されません

*2 個人認証システム AE/AE2 認証管理ツールで「名前」または「キー表示名」がブランクだったときは、機器にログインしているログインユーザー名が機器アドレス帳の各項目に登録されます。

個人認証キットとの連携

個人認証キットでログインした ID の情報を取得することはできません。

MFP 本体認証

Windows 認証 / ベーシック認証
ログインした ID の情報を取得することができます。

タグ名	MFP 機能のキャプチャー	RGS スキャナーのキャプチャー
CaptureOwner	ログインユーザーの「名前」*3	出力されません
CaptureOperator	出力されません	ログインユーザーの「ログインユーザー名」*3
captureSenderUserName	ログインユーザーの「キー表示名」*3	出力されません

*3 MFP の初期設定画面で見た項目名です。

ユーザーコード認証

MFP 機能のキャプチャーではログインした ID の情報を取得することができますが、RGS スキャナーのキャプチャーでは情報を取得することができません。

タグ名	MFP 機能のキャプチャー	RGS スキャナーのキャプチャー
CaptureOwner	ログインユーザーの「名前」*4	出力されません
CaptureOperator	出力されません	出力されません
captureSenderUserName	ログインユーザーの「キー表示名」*4	出力されません

*4 MFP の初期設定画面で見た項目名です。

こんなときは

機器で不正コピーガードを有効にしている場合、不正コピーデータはどのようにキャプチャーされるのか？

機器で不正コピーガードを有効にしている場合、不正コピーカードが設定されているデータをキャプチャーすると、下図のようにグレー地に変換されたデータがキャプチャーデータとして保存されます。

キャプチャー機能はファクスの同報送信に対応しているか？

2008 年秋モデル以降の機器は同報送信に対応しています。機器の「ジョブログ収集」の設定を [有効] にしてください。
2008 年春モデル以前の対応していない機種で同報送信を行った場合、文書情報には複数宛先のうち 1 件の宛先のみ出力されます。

ファクス送信をキャプチャーする設定にすると、ファクスの直接送信ができない

機器の FAX 直接送信ボタンがグレーダウンし、選択することができなくなります。
また、オンフック機能を使用した FAX 送信はできません。

機器と RGS サーバーが通信できない場合、画像ログはどこに保存されるのか？

機器と RGS サーバーが正常に通信できない場合、画像ログは、機器側の HDD に一時保存されます。
使用される領域はドキュメントボックスと同じです。
機器側の HDD に一時保存された画像ログは、RGS サーバーと通信が正常にでき次第（RGS サーバーが正常に稼動次第）転送されます。
一時保存可能なジョブ数は、ドキュメントボックスに登録可能な文書数を参考にしてください。機器に搭載している HDD の容量、ドキュメントボックスに登録している文書数により、一時保存可能な文書数も異なります。
Ridoc Desk Navigator から一時保存された画像ログは確認できません。

クリアライト PDF が選択できない

機器のクリアライト PDF のボタンがグレーダウンし、選択することができなくなります。

キャプチャー機能使用時にプリンター出力途中でジョブキャンセルを行なった場合どうなるのか？

キャプチャーはされず、キャプチャーログにも記載されません。
正常終了された時のみキャプチャー機能が動作します。

RGS 以外の ESA のスキャナーアプリケーションを利用した場合、キャプチャーすることはできるか？

ESA アプリケーションは JavaVM により起動されるため、本体のスキャナー機能とは別のアプリケーションとして動作しています。そのため、スキャナー機能の画像を取得するキャプチャー機能は、RGS 以外の ESA では対応していません。

MFP と RGS サーバーの通信プロトコルは何か？

http プロトコル、または https プロトコルを利用しています。

FAX が宛先間違いなどで送れなかった場合、キャプチャーは取得されるのか？

FAX 送信の動作を開始した時点でキャプチャーが実行されるため、結果に関わらずキャプチャーは取得されます。

注意制限事項

- 本プラグインには、MFP オプションの、imagio 拡張データ変換ボードが必要です。
- 一部の機種では imagio 拡張データ変換ボードを装着してもキャプチャー機能を使用できないことがあります。
  フルカラーワイドフォーマットの MFP はキャプチャー機能を使用できません。（2013 年 8 月時点）
- 配信サービス状態が配信停止中の時は、キャプチャー機能も停止します。
- RGS 管理ツールの [システム]/[ジョブ設定] の設定項目のうち、キャプチャージョブに適用される設定は「リトライ回数」「リトライ間隔」「時間帯指定配信をする」「処理スレッド」のみです。
- キャプチャージョブは、RGS のスキャンジョブと同じスレッドで処理するため、処理スレッド数は、「その他のジョブ」の設定値で処理されます。尚、処理は RGS のスキャンジョブが優先されます。
- キャプチャー設定ツールにて管理可能な機器台数の上限は 100 台となります。
- キャプチャー機能設定時、FAX の直接送信、およびハイコンプレッション PDF の作成をすることはできません。
- セカンダリー配信サーバー設定機能、 ロードバランスサーバー設定機能には対応していません。
- ファイル自動入力プラグインには対応していません。
- FAX 送信、スキャナーの複数宛先の取得は、2008 年秋モデル以降の機種のみ対応しています。
- 文書書誌「captureReceiverInfo」（スキャン送信情報、スキャン送信宛先、スキャン宛先名称）の内容のうち、ファイル名に付与できる情報は代表 1 件の「スキャン宛先名称」のみです。全情報を取得するためには、XML ファイルや CSV ファイルの配信を行ってください。
- 文書書誌「captureReceiver」（FAX 送信情報、FAX 送信宛先番号）の内容のうち、ファイル名に付与できる情報は代表 1 件の「FAX 送信宛先番号」のみです。全情報を取得するためには、XML ファイルや CSV ファイルの配信を行ってください。
- 本プラグインを利用する場合は、お使いのサーバー環境を最適な構成にしてから運用する必要があります。最適なサーバー環境の構築につきましては、ご販売店及び担当営業までご連絡ください。
- キャプチャー画像の送信先が「ScanToMe/Home」に指定されているときは、エラーになります。
- ユーザーがキャプチャー設定ツールにログイン中は、管理者が RGS 管理ツールにログインできません。
- キャプチャープラグインの配信先プロジェクトとして利用できるのは、ワンタッチスキャン設定がされており、認証プロファイルが設定されていないプロジェクトになります。
- このプラグインは、Microsoft Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2/2012 および Open Enterprise Server を送信先に指定できます。
- キャプチャー設定ツールのログインユーザー名に、1 バイト文字だけを使用することはできません。
- キャプチャープラグインがインストールされた RGS サーバーのローカル共有フォルダーに、キャプチャー画像をフォルダー配信することはできません。
- MFP のドキュメントボックス機能が無効のとき、RGS は画像ログキャプチャープラグインに対応しません。
- RGS の SDK アプリによるスキャンジョブとキャプチャー画像の配信先を分けることはできません。
  SDK アプリによるスキャンの場合、スキャンジョブとキャプチャー画像は必ず MFP と同期している RGS サーバーへのみ転送されます。

© 2012,2013 Ricoh Co., Ltd.